

も感動致しました。

一月四日には同窓会主催で就職対策研修会を開催しております。最近の静岡県教員採用試験は依然厳しく保健体育教員志望の多い日体大生にとって大変難しい事になつております。公務員や一般企業への就職を視野に入れている学生もおりますが、当日、同窓会先輩の講話や、採用試験突破、一般企業の就職の体験談など真剣に聞きメモをとる学生の姿が見られました。何か自分の活動のヒントとして参考にして頂ければと思います。

これからも保護者会は、同窓会と連携し、出来る限り子供達を応援し温かく見守つていきたいと思います。

## 日体大就職対策研修会へ参加して



日本体育大学三年  
村 松 良 太



静岡県教育委員会事務局  
スポーツ振興課  
北澤 康代（平5卒）

今回、初めて就職対策研修会に参加させて頂きました。採用試験が近く中、土屋正男同窓会会长や多くの先輩方からの貴重なお話を聞かせて頂き、今後の進路活動や自分の為に繋がる研修会でした。

研修会の主な内容としては、各方面で活躍されている先輩方の教員採用試験や就職活動の体験発表。教職関係と企業、興味のあるグループに分かれ、グループ別懇談会を行いま

した。懇談会では、普段学生が聞けないような相談事や悩み事を直接先生方に聞くことができ、貴重な体験をさせて頂きました。

私自身、就職活動を控えています。その中、研修会の始めの挨拶に於いて、会長からこのような言葉を頂きました。「行動を起こし、志と覚悟を持って取り組むことが、将来に向けての一歩になる。」この言葉を頂き、今回の研修会を私にとって将来本体育大学の学生としての誇りを持ち、これから就職活動に意欲的に取り組みたいと思いました。

学年問わず参加出来るので、学生は積極的に参加し、少しでも自分の糧にすべきだと思う研修会でした。

## 『スポーツ』との関わり方

静岡県教育委員会事務局  
スポーツ振興課  
北澤 康代（平5卒）

今回、初めて就職対策研修会に参加させて頂きました。採用試験が近く中、土屋正男同窓会会长や多くの先輩方からの貴重なお話を聞かせて頂き、今後の進路活動や自分の為に繋がる研修会でした。

研修会の主な内容としては、各方面で活躍されている先輩方の教員採用試験や就職活動の体験発表。教職関係と企業、興味のあるグループに分かれ、グループ別懇談会を行いま

までを対象としたスポーツ推進業務に携わっています。大雑把に分類すると学校以外の環境で行われるスポーツの推進です。これまで、高等体育、「競技としてのスポーツ」にどっぷり浸かっていた私にとって、これまでとは違った『スポーツ』の世界に触れることができるよい機会となりました。「全力を尽くし、限界を超えたところに楽しさがある。」というスポーツ以外にも、スポーツとの関わり方には、多様な形があるということを知ることができました。

東京マラソン開催以降、市民ランナーが増えてきているそうです。静岡県内でも多くの市町で長距離走の大会やイベントが開催されていきます。市民ランナーの年齢や運動経験は様々ですが、コツコツ走り続けている人々はみなさん本当に元気です。続けることの大切さを感じます。このマラソン大会ひとつをとっても、参加者の健康増進だけでなく、仲間づくりや地域の活性化、経済効果は大変大きいそうです。『スポーツ』は社会とつながっているものだということを改めて実感しました。

平成二十六年四月より、県教育委員会スポーツ振興課勤務となりました。学校を離れたのは二度目で、前回の知事部局勤務から十年ぶりです。前回は、国体・障がい者スポーツ大会の式典演技の担当だったため、イベント業務で「創る楽しさ」ということを改めて実感しました。

また、未就学児と保護者を対象としたイベントでは、楽しそうに体を動かして遊ぶ子ども達の姿をみて、環境づくりさえしていけば子どもは体を動かす楽しさを知つてくれると思う。そのスポーツ振興課では、生涯スポーツ班に所属し、赤ちゃんから高齢者

## 全日本大学野球選手権大会 (第63回)に出場して



横山 義昭（昭50卒）

平成二十六年度、全日本大学野球選手権大会（第六十三回大会）に日本体育大学卒業後、静岡大野球部監督として初めて出場致しました。

私は昭和五十年に日体大を卒業し、静岡大学教養部体育教員として採用され、平成十二年に教育学部生涯スポーツ専攻教授となり現在に至っています。当初は様々な苦労があり、厳しい大学教員生活でした。そんな時支えてくれたのは、高校時代の恩師である故大長先生（日体大

これが話題になつてますが、楽しいと感じる経験をたくさんすることと、運動離れに歯止めがかかるのではないか、と期待しています。

このように、社会におけるスポーツの仕組みづくりを担当する行政の部署に勤務し、学校に勤務しているときとは違った世代や分野の方々と交流する毎日の中で、自分自身の引き出しが増えていく気がしています。再び教員として学校に戻ったとき、この経験を活かして、「鍛えるスポーツ」と「楽しいスポーツ」の両方を指導していきたい、と考えています。